

# 教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
URL http://uccj.org  
発行人 長 崎 哲 夫  
編集主筆 渡 邊 義 彦  
印刷所 株式会社きかんし



学科・筆記試験に取り組む受験者

2013年

## 春季教師検定試験

語るべき救いの言葉を獲得するために

### 補教師受験者半数が判定保留に

2013年春季教師検定試験が、2月26日～28日、東京会場（日本キリスト教会館4、6階会議室）において実施された。

1日目には開会礼拝の後に学科筆記試験、2日目と3日目には全体会および個人面接試験という日程で、全て滞りなく行われた。

今回の試験に臨んだ受験者の総数は71名であった。内訳は補教師志願者60名、正教師志願者（再受験）9名、教団外からの転入志願者2名（補教師1名、正教師1名）である。

試験終了後、28日に行われた第37総会期第11回教師検定委員会において、合格の状況は次のように確認された。補教師11合格18名、保留30名、不合格3名、継

続（CⅢコース受験者）9名。正教師11合格4名、保留1名、不合格4名。転入1保留1名（補教師）、不合格1名（正教師）。

学科試験の成績が合格点に若干足りなかった受験者については判定が保留された。レポート課題が与えられ、後日その提出物によって合格の再判定がなされるのである。神学校卒業予定者を伝道師として招聘することを決断し、その就任を祈りつつ待っている諸教会

・伝道所の事情を斟酌して採られてきている措置である。また、担任教師による聖礼典執行を心から待ち望んでいる信徒たちの祈りが背後にある。

再判定を踏まえての合格最終決定は3月19日に行な

われた。その結果、補教師の合格者は48名、不合格者は3名、継続者は9名、また正教師の合格者は5名、不合格者は4名となった。

転入の合格者は1名（補教師）。不合格の判定が出ていた転入志願者1名（正教師）については、日本基督教団転入の意志が変わらず、秋に再受験する意向であることが確認されたため、審査継続扱いとし、次回是不合格科目のみの受験とすることを決定した。

以上の結果は3月21日に行われた教団三役会で東野尚志委員長が報告し、承認されている。

面接試験に先立って行われる全体会において委員長は、教憲第9条「本教団の教師は、神に召され正規の

手続きを経て献身した者とする」を丁寧に解説し、教師検定試験が行われる意義を十分理解するとともに、告げられる合格の結果を謙遜に受け止めることを求めた。特に今回の教師検定試験では判定保留となった受験者が多かった。学びの姿勢にどのような問題があったかを捉え、今後の歩みが御心に適うものとして整えられていくよう努力することを勧め促した。

試験結果について委員会は懇談し、以下の感想が出された（抜粋）。

「教憲教規および諸規則・宗教法人法」の筆記試験補教師で合格点に届かない答案が続出したことが保留の多かった要因の一つ。公同教会として自己を規定し

形成する法についての認識、理解が乏しいのではな

いか。「合同教会」と混同して論述するなど、出題意図を取り違えているケースが目立った。

旧約聖書神学（補教師）は比較的取り組みやすい設問とした。それだけに論述が曖昧な答案が少なからず見受けられたのは残念。定評のある書物を聖書と照らし合わせつつ丁寧に読んでもらいたい。旧約聖書における諸問題を神学的に論ずる力を身につけると共に、要点を押えて明快に論ずる力を備えてほしい。

新約聖書神学（補教師）は答案に出来不出来の違いがはっきりと出た。設問は2題とも「救い」と密接に関わっている。教師はこ

#### 2013 年春季・補教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法（60分）  
（A、B、CⅢコース、転入）

次の2題に答えてください。

1. 日本基督教団が教師を生み出す過程において、公同教会であることがどのように意識されているかを、『教憲教規および諸規則』に則して述べてください。
2. 『宗教法人法』において、宗教法人である教会が裁判所から解散を命じられることがある事例をすべて列挙してください。その際、条項の数字だけを羅列するのではなく、関係する各条項については具体的にその内容を記してください。

旧約聖書神学（60分）（B、CⅢコース）

次の3題のうちから2題を選んで答えてください。

1. 旧約聖書における契約について述べてください。
2. ホセア書の預言の特質について述べてください。
3. 旧約聖書における知恵について述べてください。

新約聖書神学（60分）（B、CⅢ、転入）

次の2題を新約聖書のテキストを2箇所以上挙げつつ、論じてください。

1. 共観福音書におけるメシア理解について
2. パウロ書簡における「死」の理解について

#### 講評

春季の試験は、神学校を卒業した補教師の受験者が多くな

ります。今回、その補教師受験者の半数が保留の判定となりました。合同教会と公同教会を混同して、教憲・教規の試験で合格点に達しない人が多かったのです。合同教会である教団の形成に仕える教師として、公同教会に連なる信仰が明確でなければなりません。教会の歴史と信仰を、改めてしっかりと学んでほしいと思います。

重要な問題について聖書テキストに基づいて新鮮に語る務めへと召されている。そこに畏れと喜びがあるはずである。熱心な学びを通してその職務への確信を深めてもらいたい。

定委員会が実施した最後の試験となった。重い務めを与えられ、自らの召命を問われ続ける2年間の歩みであった。献身者を生み出す主の働きに立ち会った幸いをも思う。感謝である。（渡部和使報）



全体会において東野委員長

説教の試験においても、救いの使信が明確でないものがありました。補教師はまずもって説教者として立てられ、福音の説教を通して、生ける主の霊的現臨に仕える務めを担うのです。安易にネット上の説教を継ぎ接ぎするのではなく、釈義から黙想を経て、語るべき救いの言葉を獲得してほしいと思います。説教者としての日常に精進すること、正教師試験に向けての最も確かな備えとなるのです。

東野尚志

#### 荒野の声

このコラムを讀んだ先輩牧師から「苦労しているね」と声を掛けられた。見

抜かれたか、と赤面した。筆の立つほうではない。確かに苦労している。これまでのコラムとの文体の違いも同僚から指摘された。なかなか苦しい比較だ。しかし、負った務め、泣き言を言わず粛々と進めるほかにい▼駆け出しの伝道師だったとき、教会員からこう言われたことがある。「先生、説教の準備が大変だ、大変だ」と言わないでください」正直な思いをつい口にしてしまったことからの言葉だった。今でも、説教準備が楽になったとは思わないが、顔にも口にも出さないように気をつけるようになった▼寿司屋に行つて、大将がねじり鉢巻きに汗かく握つていたら、どんな良いネタであつてもおいしくは思えないだろう。白鳥が全身で足掻いて水を蹴つていては、とても優雅には思えないだろう。寿司は、飯台にさっと出され、ほろっと口でほとけるのがおいし

いだろうし、白鳥は水面下で力強く水を蹴つていようと、何事もないかのように水面を進む姿が美しい▼主は、わたしの荷は軽い、と仰つた。主が十字架にすべてを負つてくださったゆえだ。これを知る信仰者は、互いの重荷を担いなさい、と言つた。軽やかに重荷を担えるなら、それはなんと素晴らしいことであらうか。







◆ 南インド合同教会との協議会 ◆

宣教協力・人事交流について協議

2013年2月19日～25日の間、南インド合同教会（以下CSI）の招きにより、日本基督教団よりの秋山徹世界宣教委員会委員長と大三島義孝宣教委員会幹事及び加藤誠世界宣教幹事がチェンナイ（タミル・ナードゥ州々都）にあるCSI本部を訪れた。

目的は共に合同教会である両教団の理解を深め、人事交流を含め、どのような宣教の分野で協力できるかを協議するためであった。

20日朝の礼拝からプログラムが始まった。秋山牧師が説教を担当した。靴を脱ぎ、カーペットに座って礼拝を守った。本部の中の各部署を案内してもらった後、午後から第1回目の協議が始まった。

CSIからは、教団総会議長であるRev.Dr.C. Devakrishnamoorthy（以下Devakrishnamoorthy）を始めとして副議長、総幹事、財務責任者として4人のディレクターと婦人会担当幹事が出席した。最初それぞれの教団の歴史を紹介し、具体的な分野での協議に入った。

CSI側からは、豊かな人的資源（信徒数400万）、活発な宣教活動（国内信徒宣教師2000人）を背景に、短期間であっても共に伝道活動を行うことや、ミッションスクールに教師を派遣することが提案された。農業指導者や社会福祉、特に高齢者のケアについての専門家派遣して欲しいという要望が出された。



教団からは将来インドの青年を含めた国際会議の開催を日本で開催したいこと。牧師、青年、教育主事等の交換プログラムを企画し、相互交流に力を入れたこと等が提案された。

21日の午後まで会議は続き、相互の教会創立記念日を互いに覚えて祈ることが約束された。

22日からはナマカルに向



上、南インド合同教会での礼拝で説教する秋山委員長。下、CSIとの協議会後に4人のディレクターと共に。

**比嘉多恵子氏（隠退教師）**  
13年2月4日逝去、98歳。  
東京都に生まれる。39年日本神学校を中退。62年受允。72年受按。62年那覇中央教会に赴任。80年まで牧会し、84年隠退した。遺族は義弟・



**比嘉盛二郎さん。**  
小国清子氏（休職教師）  
13年2月13日逝去、90歳。  
香川県に生まれる。54年日本聖書神学校を卒業。同年田園調布教会に赴任。香川豊島教会、香川直島伝道所を12年まで牧会し、休職した。遺族は甥・田中暉彦さん。



**杉原 助氏（隠退教師）**  
13年2月26日逝去、85歳。  
岡山県に生まれる。52年日本基督教神学専門学校を卒業。同年長府教会に赴任。岩国東教会、広島南部教会を経て安行教会を97年まで牧会し、隠退した。遺族は娘・徳村葉子さん。



**田島信之氏（無任所教師）**  
12年1年31日逝去、96歳。  
東京都に生まれる。42年ユニオン神学校を卒業。50年牛込弘方町教会に赴任、青山学院を経て75年より80年まで弘前学院に勤めた。遺族は娘・小宮山喜枝子さん。

お詫び・訂正 新報4770号1面文中及び写真キャプション、「名取伝道所」を「名取教会」に、「荒井偉作伝道師」を「荒井偉作牧師」に、お詫びして訂正します。

前期に「牧会者とその家族のための相談室」の設置が常務委員会から差し戻された。緊急かつ重大な課題であり、仕切り直して再度上程することとした。

宣教研究所から出された「宣教基礎理論」を深め、宣教委員会は「宣教方策」を考えねばならない。教団総会が開催されない年に「宣教方策会議」を開催することになっている。今期の主題は「伝道と伝道者、牧会と牧会者（仮）」とする。内容に関しては次回委員会に協議する。3月開催が確定したが「東日本大震災国際

族のための相談室」の設置が常務委員会から差し戻された。緊急かつ重大な課題であり、仕切り直して再度上程することとした。

宣教研究所から出された「宣教基礎理論」を深め、宣教委員会は「宣教方策」を考えねばならない。教団総会が開催されない年に「宣教方策会議」を開催することになっている。今期の主題は「伝道と伝道者、牧会と牧会者（仮）」とする。内容に関しては次回委員会に協議する。3月開催が確定したが「東日本大震災国際

が2014年8月開催予定の報告を受けた。

2012年度決算、及び2013年度予算を承認した。在日大韓基督教会との宣教協力の推進に関する件を協議した。

次回委員会は7月15日、16日を予定している。（具志堅篤報）

が2014年8月開催予定の報告を受けた。

2012年度決算、及び2013年度予算を承認した。在日大韓基督教会との宣教協力の推進に関する件を協議した。

次回委員会は7月15日、16日を予定している。（具志堅篤報）



後列左から、奥山、小平、宮下、大川（職員）、計良（幹事）  
前列左から、長谷川書記、長崎（総幹事）、愛澤委員長、森川、森

第38総会期第1回予算決算委員会が3月7日～8日に教団会議室において行われた。

互選の結果、愛澤豊重委員（松沢）を委員長に、長谷川洋介委員（石岡記念）を書記に選出。他は森川恵美子委員（阿佐ヶ谷）、奥山盾夫委員（千葉本町）、小平正宣委員（代々木中部）、宮下重康委員（玉川）、森研四郎委員（鎌倉）である。

常任委員として委員長と書記、互選により森川委員を選任した。

第37総会期委員会よりの

申し送り事項について次のように確認すると共にその検討を開始した。

①未収入金・未払い金の  
②より適正な教区負担金賦課方式の検討 各教区ごとの教員一人あたりの負担金額を確認し比較してみる。また現在の教区負担金賦課計算式を確認してみる。

③教区活動連帯金の制度変更への対応 現状維持とすることではなく、伝道目

第38回総会期第1回宣教委員会が3月18日～19日、教団会議室で開催された。

前期委員は、張田員、加藤幹夫、具志堅篤、白戸清、田中かおる、望月修、宮本道、清藤淳（教育）、釜土達雄（社会）、渡辺多恵子

（全国教会婦人会連合）、石井錦一（日本キリスト教保育所同盟）、古屋博規（全日本キリスト教社会事業同盟）、キリスト教保育所同盟との連携強化、②「障がい」を考える小委員会の継続。③「牧会者とその家族のための相談室」設置。④幼稚園、保育園問題の課題（伝道協力）。⑤グローバル化時代の宣教形態の研究。⑥東日本大震災国際教会と牧会者（仮）とする。委員会の方針について協議した。

前期に「牧会者とその家

⑤救済対策引当預金の充  
実・運用規定の整備 「救済  
対策基金に関する運用規  
定」と「事務局規定細則」  
の重複部分の整理が必要で  
ある。

⑥三局・部落解放センタ  
ーの合算計算書の改善 三

法人会計規則に準拠する改善である。③2012年度第二次補正予算案に関する件の承認。④全国財務委員長会議の日程を2013年9月30日～10月1日に決定した。

（長谷川洋介報）

族のための相談室」の設置が常務委員会から差し戻された。緊急かつ重大な課題であり、仕切り直して再度上程することとした。

宣教研究所から出された「宣教基礎理論」を深め、宣教委員会は「宣教方策」を考えねばならない。教団総会が開催されない年に「宣教方策会議」を開催することになっている。今期の主題は「伝道と伝道者、牧会と牧会者（仮）」とする。内容に関しては次回委員会に協議する。3月開催が確定したが「東日本大震災国際



後列左から、白戸、渡辺、釜土、古屋、望月、宮本、小林、丹波（職員）、大三島（幹事）、野村（幹事）  
前列左から、加藤、清藤、具志堅書記、張田委員長、石井、田中

前総会期申し送り事項の検討開始

▼ 予算決算委員会 ▲

「牧会者・家族相談室」を再度上程

▼ 宣教委員会 ▲



# 2012年度 出版書籍 案内

現代聖書注解 全44巻予定 (第40回配本)  
**哀歌**  
F・W・ダブス・オールソッフ 左近豊 訳  
なぜ神は沈黙しておられるのか。悲嘆の詩を文  
学的に分析し、神の御業・沈黙・不在の信仰的意  
味を探る。 ●A5判・274頁・5670円  
▲2013年3月刊

ニユーセンチュリー聖書注解 (第9回配本)  
**イザヤ書40―66章**  
R・N・ワイフレイ 高柳富夫 訳  
「苦難の僕」を第二イザヤ自身の苦難とするなど、  
成立当時の時代背景に立ち返りテキストを読み解  
いていく。 ●A5判・378頁・6510円  
▲2012年12月刊

ニユーセンチュリー聖書注解 (第10回配本)  
**コヘレトの言葉**  
R・N・ワイフレイ 加藤久美子 訳  
「コヘレトの言葉」に見られる言葉の矛盾―その課  
題に挑みつゝ、書の統一性、ヘレニズムとの関連性に  
詳細な説明を施す。 ●A5判・304頁・4830円  
▲2013年2月刊

**「コヘレトの言葉」注解**  
西村俊昭  
「コヘレトの言葉 (伝道の書)」の日本語注解として  
最大の書であり、長年旧約研究に尽力してきた著  
者による集大成。 ●A5判・586頁・7350円  
▲2012年6月刊

説教黙想―アレテア 合本  
**エフシの信徒への手紙、フィレモへの手紙**  
**コロサイの信徒への手紙、フィレモへの手紙**  
『説教黙想アレテア』69、72号に連載された黙想  
集。各書の冒頭に「序論」も設け、説教に携わる人  
を助ける学びの書。 ●B5判・316頁・4410円  
▲2012年9月刊

CDで聴く日本の説教 (最終回配本)  
**渡辺善太** CD付  
加藤常昭 監修  
銀座教会名誉牧師時に語った三説教を収録。「善太  
節」がテンポよく展開しており、80歳にしてなお  
闊達な名説教。 ●四六判 函入り・64頁・3570円  
▲2012年12月刊

**旧約聖書と説教**  
越川弘英／平野克己／大島力／並木浩一  
「旧約聖書の説教はこんなに面白い」と思わせる  
数々のヒントを四人の著者が語る。説教実例2編  
も収録。 ●A5判・128頁・1260円  
▲2013年1月刊

神学は語る (第3回配本)  
**たとえ話**  
デイヴィッド・B・ガウラー 駒木亮 訳  
イエスのたとえ話を巡り神学者たちが重ねてきた  
膨大な議論を紹介し、「たとえ話」研究の最先端へ  
と読者を導く。 ●A5判・202頁・2730円  
▲2013年2月刊

**女と男のドラマ**  
現代における愛の源泉  
2012年上智大学神学部夏期神学講習会講演集  
宮本久雄／武田なほみ 編著  
森本あんり、岩島忠彦、宮本久雄らによる11の論  
考とシンポジウムの記録を収録。女と男の真実の  
ドラマに迫る。 ●四六判・336頁・2940円  
▲2013年3月刊

聖書学古典叢書 (第2回配本)  
**石器時代からキリスト教まで**  
唯一神教とその歴史的過程  
W・F・オールブライト 小野寺幸也 訳 木田献一 監修  
唯一神教誕生の歴史的過程を実証的に分析した聖  
書学古典の古典。戦後の成果も踏まえた最終版よ  
り本邦初訳。 ●A5判・450頁・6300円  
▲2013年3月刊

**ルカの救済思想**  
断絶から和解へ  
木原桂一  
放蕩息子などルカ文書に特徴的な「改心」の物語  
を丹念に分析し、「救い」とどのように関わってい  
るのかを解明。 ●A5判・306頁・4410円  
▲2012年8月刊

**ドイツ敬虔主義**  
宗教改革の再生を求めた人々  
ヨハネス・ヴァルマン 梅田興四男 訳  
信仰の回復を求めて17、18世紀のドイツ敬虔主義  
に参加した人々の思想と生を簡潔に描いた、類書  
の少ない一冊。 ●A5判・320頁・5880円  
▲2012年5月刊

**ドイツ教会闘争の史的背景**  
雨宮栄一  
ドイツ教会闘争の前身を、第一次大戦敗戦とドイツ  
革命による領邦教会の変容、ナチス台頭からパルメ  
ン宣言までを詳述。 ●四六判・360頁・2940円  
▲2013年3月刊

信仰生活の手引き 全5巻 (第1回配本)  
**伝道** 深井智朗  
教会に行くようになったきっかけと救いの喜び、  
それを伝えたい熱い思い。自らの歩みを振り返り  
つつ語る伝道論。 ●四六判・152頁・1365円  
▲2012年4月刊

信仰生活の手引き 全5巻 (第2回配本)  
**聖書** 塩谷直也  
初めて聖書に触れる人を聖書の旅へと誘い、その旅  
路を通して知識から信仰へと導く。新鮮に出会い直  
す再入門ともなる。 ●四六判・152頁・1365円  
▲2012年7月刊

信仰生活の手引き 全5巻 (第3回配本)  
**教会** 井ノ川勝  
教会とは何か。日本の教会の歩みを見据え、この  
世で与えられた使命と真摯に取り組む共同体のあ  
り方を語る。 ●四六判・152頁・1365円  
▲2012年10月刊

グループスタディ12章 (第6回配本)  
**旧約聖書の人間模様**  
吉岡康子  
旧約聖書に描かれるさまざまな人間の姿を通して  
旧約の世界に分け入る。はじめて旧約を読む人の入  
門書としても最適。 ●四六判・114頁・1260円  
▲2012年4月刊

グループスタディ12章 (第7回配本)  
**イエスのたとえ話**  
芦名弘道  
イエスが語った12のたとえ話。聖書と生活が乖離す  
る読者の日常に、よく知られた話を通して新しい光  
を射し込ませる。 ●四六判・120頁・1260円  
▲2012年12月刊

**こひつじたちのあいいうえお**  
愛からはじまるキリスト教  
山下智子文 池谷陽子 絵  
「愛」から「アーメン」までの  
45の言葉について、心温ま  
るイラストを交え楽しく読め  
るキリスト教入門エッセイ。  
●B5判・106頁・1680円  
▲2012年4月刊

**初めて聖書を学ぶ人に**  
福音書とその真理 原田博充  
初めてキリスト教を学ぶ人たちがへ語る全10講。イ  
エス・キリストの生涯と福音のメッセージを綴った  
入門書。 ●四六判・160頁・1470円  
▲2012年6月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**「いのち」の使命**  
日野原重明  
日頃より「いのち」の尊さを訴え続ける著者が、  
失われた「いのち」の意味、残された「いのち」の  
意味を考える。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年7月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**選ばれた人になろう**  
佐藤彰  
原発から5キロに位置する福島第一聖書バプテス  
ト教会が経た避難の旅路を、牧師である著者が振  
り返り語る。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年7月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**「助けて」と言おう**  
奥田知志  
ホームレス支援の現場と震災支援の中で見えてき  
た絆の意味。自己責任論の中に逃げ込む現代人の  
心のあり方を問う。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年8月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**今、いのちを守る**  
片岡輝美  
震災後、思いを語り合い、真実をつかもうと歩み  
だした福島の子供たち。福島の子供たちを守るため  
手をつなぎ声を上げる。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年8月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**恐れるな**  
晴佐久昌英  
被災地の人を前に何を語ることができているのか。「福  
音を宣言する司祭」が被災地で宣言した福音のメッ  
セージ。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年9月刊

TOMOセレクト 3・11後を生きる  
**「なぜ」と問わない**  
山浦玄嗣  
被災地ケセンの震災の記録。津波という災禍の受  
け止め方、「祈り」の意味、キリスト教信仰の神髄  
を説く。 ●四六判・80頁・840円  
▲2012年9月刊

**新島八重ものがたり**  
山下智子  
激動の時代、自分を貫いてキリ  
スト者として生きた新島八重の  
生涯と信仰を史的裏付けを得ながら明らかにする。  
●四六判・146頁・1575円  
▲2012年11月刊

ひかりをかかげて (第2回配本)  
**マーティン・ルーサー・キング**  
共生社会を求めた牧師  
梶原壽  
キング牧師の生涯を賭けた闘いを支えた信仰はい  
かなるものであったのか。彼の目指した真の共生  
社会について語る。 ●A5判・122頁・1260円  
▲2012年7月刊

ひかりをかかげて (第3回配本)  
**レイチエル・カーソン**  
いのちと地球を愛した人  
上遠恵子  
地球の悲鳴を聴き取り続けたレイチエル・カーソン。  
彼女の生涯を、カーソン研究の第一人者がロー  
ティーンに語る。 ●A5判・128頁・1260円  
▲2013年2月刊

**風に吹かれて** 会津伝道ものがたり  
高橋力  
聖霊の風に導かれて、共に泣き、共に笑い、失敗  
を糧として福音と平和の種を蒔き続けた会津伝道  
50年の軌跡。 ●四六判・224頁・2100円  
▲2012年5月刊

**ちいろいろ牧師 榎本保郎を語る**  
主を背中にお乗せし、一途に歩んだその生涯  
榎本恵／東後勝明／原田博充  
日本の教会の霊的刷新に邁進した榎本保郎から、現  
代を生きる私たちには何を学ぶべきか。子息の恵氏と  
東後氏の対談を収録。 ●四六判・144頁・1470円  
▲2012年11月刊

**虹を駆ける天使たち**  
ナイロビの子どもたちと共に生きて  
市橋さち  
ナイロビへ渡って24年、学校を開いて10年。神さ  
まを信じて歩んできた年月を記す、感動のドキュ  
メンタリー。 ●四六判・194頁・1680円  
▲2012年9月刊

**母を語る**  
日野原重明／小塩節／今井奈緒子 他  
16名が「母への思い」を綴ったエッセイ集。様々な  
母が描かれ、母を通して私たちに働く神の恵みを  
伝える。 ●四六判・242頁・2100円  
▲2012年11月刊

TOMOセレクト  
**私は私らしく生きる 水野源三詩集**  
森本二太郎 写真 中村啓子 朗読  
水野源三の作品から47編を精選し、森本二太郎の  
美しい写真と中村啓子による心のこもった朗読で  
贈る豪華愛蔵版。 ●B5判・64頁・2940円  
▲2012年12月刊

**10代と歩む  
洗礼・堅信への道**  
志願者用ワークシート  
CD・ROM付  
朴憲郁／平野克己 監修  
大澤秀夫／寛伸子／田中かおる／古谷正仁  
本邦初、洗礼・堅信 (信仰告白) 準備のためのガイ  
ドブック。だれでも実践できる参加型プログラム  
が充実。 ●B5判・144頁・2100円  
▲2013年1月刊

**旧約聖書ものがたり** おはなし集  
中村妙子  
天地創造からエレミヤの預言に至る11の物語を収  
録。ドラマ満載の旧約聖書を小学生に向けていき  
いきと語る。 ●A5判・248頁・2100円  
▲2012年8月刊

**クリスマスものがたり** 絵本  
バメラ・ドルトン 絵 藤本朝巳 文  
生命力あふれる切り絵で再現した降誕物語の絵本。  
クリスマスとはわたしたちの希望と喜びであるこ  
とを伝える。 ●B4判変型・32頁・1575円  
▲2012年10月刊

**たいようもつきも** 絵本  
フランチエスコのうた  
キャサリン・パターソン 文  
バメラ・ドルトン 絵 藤本朝巳 訳  
アッシジのフランチエスコの祈り「太陽の賛歌」が、  
パターソンの言葉とドルトンの切り絵で鮮やかに  
よみがえる。 ●B4判変型・32頁・1575円  
▲2013年3月刊

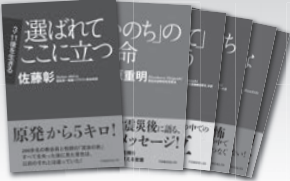


3.11を忘れないために—6人の熱いメッセージに耳を傾ける

TOMO  
セレクト

## 3.11後を生きる

2011年3月11日以降、この国では様々な言葉が語られてきました。それはあたかも言葉の洪水のように。震災以来、言葉の力が試され続けています。本シリーズは、著者一人ひとりが、与えられた状況と向き合い、格闘し、存在をかけた問いかけをする中から紡ぎだされたものです。 ●各冊 四六判 並製・80頁・840円



### 選ばれてここに立つ

佐藤 彰 福島第一聖書バプテスト教会牧師



原発から5キロに位置する福島第一聖書バプテスト教会が経た旅路とは。この群れの牧師として立てられた著者が、震災を振り返って語る。

### 「いのち」の使命

日野原重明 聖路加国際病院理事長・名誉院長



日頃より「いのち」の尊さを訴え続ける著者が、失われた「いのち」の意味、遺された「いのち」の意味を考える。著者渾身のメッセージ!

### 「助けて」と言おう

奥田知志 北九州ホームレス支援機構理事長、牧師



ホームレス支援の現場と震災支援の中で見てきた、傷つくことを恐れて自己責任論の中に逃げ込む現代人の心のあり方を問う。「絆」とは?

### 今、いのちを守る

片岡輝美 会津放射能情報センター代表



震災後、思いを語り合い、真実をつかもうと歩みだした福島の親たち。今ここでいのちを、福島の子どもを守るために手をつなぎ声を上げる。

### 恐れるな

晴佐久昌英 カトリック司祭



被災地の人を前に何を語ることができるのか。「福音を宣言する司祭」が被災地で宣言した福音のメッセージ。「宣言する」力の源に気付く一冊。

### 「なぜ」と問わない

山浦玄嗣 ケセン語訳聖書翻訳者、医師



津波によって失われたいのち。「神がいるなら、なぜ」の問いへの答えとは。その答えの意図するところを「祈り」の神髄からひも解く。

信仰生活を歩み出すために、振り返るために

## 信仰生活の手引き

### イエスさまと共に生きるって どういうことなんだろう

教会で長年生きてきたあなたも、教会で新しく生き始めるあなたも本シリーズで「信仰生活」の基本を学んでみませんか?

「伝道」「聖書」「教会」「礼拝」「祈り」の全5巻を刊行します。

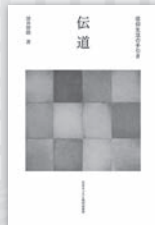


### 第1回 伝道

深井智朗 著

組織神学者として知られる著者が、自らの歩みを振り返りつつ語る伝道論。伝道という営みを簡潔に描き出す。

●四六判 並製・152頁・1,365円

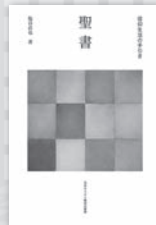


### 第2回 聖書

塩谷直也 著

初めて聖書を手にする人を聖書の旅へと誘い、知識から信仰へと導く。聖書の「触れ直し」にも最適。

●四六判 並製・152頁・1,365円

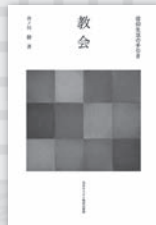


### 第3回 教会

井ノ川 勝 著

教会とは何か―。聖書と教会の歴史に聞きつつ、日本の教会の歩みを見据えて、教会のあり方を語る。

●四六判 並製・152頁・1,365円



シリーズ続刊予定

■礼拝 越川弘英 著

2013  
年度内刊行  
予定

■祈り 左近 豊 著

## 讃美歌21

文字のデザイン、特装版の表紙材質・色・デザイン、納期やご予算等もあわせてなんでもご相談ください。



- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| ① A6判・カジュアル版(アケア) 2,520円  | ② A6判・カジュアル版(キャメル) 2,310円   |
| ③ A6判・クロス装(交読詩編付き) 3,255円 | ④ A6判・クロス装 2,310円           |
| ⑤ B6判・クロス装 3,675円         | ⑥ B6判・クロス装(交読詩編付き) 4,620円   |
| ⑦ A5判・クロス装 7,980円         | ⑧ B6判・ハードカバー(交読詩編付き) 4,620円 |
| ⑨ B6判・革装(交読詩編付き) 12,600円  |                             |
- 【点字版・歌詞 発売中】

## こどもさんびか

改訂版



おかげ  
きま  
で 刊行より10年  
よりゆたかなさんびのために  
これからお使いください。

- ① こどもさんびか 改訂版 B6判・798円
- ② こどもさんびか 改訂版 伴奏用 並製・B5判・3,360円
- ③ こどもさんびか 改訂版 伴奏用上製・B5判・4,410円

信仰生活を豊かにするキリスト教雑誌

月刊 毎月発行(10日発売)

## 信徒の友

B 5 判

定価  
税込 570円  
年間購読料(送料別)  
6,840円



はじめてキリスト教に触れる人々のための伝道新聞

月刊 毎月発行(10日発売)

## こころの友

タブロイド判

定価  
税込 35円  
年間購読料(送料別)  
420円



子どもと共に育つ、CSリーダーの教案誌

季刊 年4回発行(2、5、8、11月)

## 教師の友

B 5 判

定価  
税込 1,600円  
年間購読料(送料別)  
6,400円



説教をする人々のための聖書黙想誌

季刊 年4回発行(3、6、9、12月)

## 説教黙想 アレティア

編集主任◆加藤常昭

B 5 判

定価  
税込 1,850円  
年間購読料(送料別)  
7,400円



教会音楽と礼拝を考える専門誌

季刊 年4回発行(1、4、7、10月)

## 礼拝と音楽

B 5 判

定価  
税込 1,180円  
年間購読料(送料別)  
4,720円



日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 ☎03-3204-0422 03-3204-0457  
http://bp-uccj.jp \*ホームページからのご注文も承っております。《価格5%税込》





## 宣教師からの声

番外編

### 遺愛学院創設期の宣教師たち

福島 基輝 (遺愛学院校長)

写真左から、ハリス夫人、ライト夫人、ハミスファー医師、デカルソン校長



遺 愛 は 2013 年 1 月 に創基 139 周年を迎えた北海道で最も長い伝統をもつ女子中学高校である。

創基に関わった M・C・ハリス夫妻が米国メソジスト監督教会から伝道のために日本に派遣され、函館に到着したのが 1874 年 1 月 26 日であった。ハリス夫人はすぐに子女を集め『日々学校』を始め、英語や聖書、裁縫、作法などを教えた。最初の生徒は 5 人であったが、ハリス夫人にとってはこの 5 人の生徒を得たことは生涯忘れることのできない喜びの一つだった。

『日々学校』の生徒たちは、その後、M・C・ハリスの開いた私塾『愛育学校』で学んだ。ハリス夫人は平常教育は行っていたものの不十分と考え、寮つきの正式な女学校を作りたいと願い、祈り、アメリカメソジスト監督教会の婦人外国宣教協会 (WFMS) の『Heathen Woman's Friend』という機関誌に寄稿した。

その文章が当時、愛娘を病気で失い悲しみのなかにあったカロライン・ライト夫人の心を動かした。夫人はドイツ駐在アメリカ公使夫人としてドイツに住んでいたが、アメリカに残してきた子どもの 1 人が重病になり、危篤の知らせを受けた。驚いた夫人はせめて、1 日でも看病したいと祈りつつ帰国した。病床にあった娘も、母に一目会いたいと祈っていた。この祈りがかなえられ数日看病することができ、母の手のなかで感謝しつつ召された。

ライト夫人は主の深い恩寵に応えるために、何か奉仕をしたいと考えていた時に、ハリス夫人の一文を読み、娘と同じ年齢で教育を受けら

れないでいる異国の少女のために尽くすことこそ、その使命であると考えた。それまで蓄えていた愛娘のための教育資金と編み物や刺繍をおこない教会バザーで販売した益金、信仰の友への呼びかけで集まった献金をあわせて 1800 ドルを、函館の女子教育のために献げた。

1878 年 10 月教育宣教師としてプリーストが函館に派遣された。1879 年 12 名の生徒で学校を開設するが、同年 12 月 6 日の大火で教会と校舎が焼失した。プリーストは自分の寝室で授業を継続したが、大火のショックが大きかったのだろうか、健康をそこない 1880 年春に帰国した。

しかしついに祈りがかなえられ、1882 年 2 月 1 日に文部省認可の女学校「カロライン・ライト・メモリアルスクール」が設立された。初代の校長はウッズワースであった。最初の入学生は 6 名であったが、9 月には寄宿生 16 名と数人の通学生を数えるようになった。

当初、学校名は『カロライン・ライト・メモリアル・スクール』だったが、当時は横文字が受け入れられにくく生徒が集まらないので開校 3 年目に、『遺愛女学校』と校名変更をした。

初代校長のウッズワースが結婚のために 1 年で日本を離れたため、代わりに第 2 代校長にハンプトンが就任した。ハンプトンは在校生にとっては優しく包み込む母親のような存在であったが、校長になった当時、学校の整備に生徒募集に相当苦勞をした。函館の一般家庭を回ったり、弘前にも出かけていった。とても忙しく、助け手をアメリカに求めたところ、1883 年にハミスファー宣教師 (医師でもあった) が派遣された。ハミスファーは北海道で最初の女医であり、朝 6 時から函館の人々のために診療をし、合間に遺愛の生徒に教え、函館師範学校でも毎日 1 時間英語を教えた。1887 年にはハンプトンの努力のかいもあり、生徒数は 94 名になった。この年、ヒューエットが第 3 代校長となり、ハ

ンプトンは一時帰米するが、1888 年に再来日し弘前遺愛女学校に赴任するが、また遺愛に復帰する。その後、第 4 代校長デカルソンを助けながら、現在のキャンパス、遺愛の校舎および元町幼稚園の整備に貢献し、34 年間、遺愛の教育に身を捧げた。

遺愛の教育の基盤をつくり、奉仕の伝統をつくったのは第 4 代校長のオーガスタ・デカルソンと言っていいであろう。デカルソンは 1890 年 (明治 23 年) に校長に就任し、1891 年予備科、翌年に小学校をつくり、1895 年に幼稚園を併設した。また弘前に姉妹校の「来徳女学校」ができ、出張し指導にあたっていた。遺愛では 35 年間校長職を務め、『信仰・犠牲・奉仕』を遺愛の校訓として位置づけたのはデカルソンであった。デカルソンは寮生を中心に王女会を組織し、教会の日曜学校を手助けするとともに、貧民救済、病人慰問、幼児教育のために生徒とともに奉仕をしていた。

1918 年には、草花をもって病院訪問、編み物、袋物、刺繍細工などで得たお金をロシア革命の混乱のなかにあったシベリアの子供のために送金していた。1923 年の関東大震災にあたっては、教職員・生徒の働きで衣類・肌着などを製作・寄贈し、献金を送り、また 1925 年には朝鮮半島の水害に衣類と附属品を送っていた。

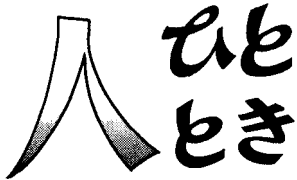
デカルソンについては、函館盲学校・聾学校との関わりについて注目される。函館盲学校・聾学校の前身である訓盲院は 1895 年にメソジスト教会のシャーロット・ピンクニー・ドレーパーが設立したが、デカルソンは設立当初より財政的な支援、授業も担当し、訓盲院を支えた。一時期は遺愛がその経営母体になった時期があり、遺愛の卒業生が教師になっていた。

現在、卒業生を 2 万 4000 人強輩出しているが、『信仰・犠牲・奉仕』を身をもって示した初期の宣教師達の精神が、今も確かに継承されている。

— Kyodan Newsletter より —

### 2013 年教区総会日程

| 教区  | 会 期                                    | 会 場                | 問安使  |
|-----|----------------------------------------|--------------------|------|
| 北 海 | 4 月 29 日 (月) 10:00<br>～ 30 日 (火) 15:30 | 札幌北光教会             | 長崎哲夫 |
| 奥 羽 | 5 月 21 日 (火) 12:30<br>～ 22 日 (水) 15:45 | 奥羽キリスト教センター        | 長崎哲夫 |
| 東 北 | 5 月 28 日 (火) 13:00<br>～ 29 日 (水) 16:00 | 仙台青葉荘教会            | 長崎哲夫 |
| 関 東 | 5 月 28 日 (火) 10:00<br>～ 29 日 (水) 16:00 | 埼玉ソニックシティ<br>小ホール  | 雲然俊美 |
| 東 京 | 5 月 28 日 (火) 10:00                     | 富士見町教会             | 伊藤瑞男 |
| 西東京 | 5 月 26 日 (日) 15:00<br>～ 27 日 (月) 17:00 | 国分寺教会              | 長崎哲夫 |
| 神奈川 | 6 月 29 日 (土) 10:00                     | 清水ヶ丘教会             | 雲然俊美 |
| 東 海 | 5 月 21 日 (火) 13:30<br>～ 22 日 (水) 15:00 | ホテルアンピア松風閣<br>(焼津) | 伊藤瑞男 |
| 中 部 | 5 月 21 日 (火) 12:00<br>～ 22 日 (水) 14:00 | 名古屋中央教会            | 石橋秀雄 |
| 京 都 | 5 月 3 日 (金) 10:00<br>～ 4 日 (土) 15:00   | 洛陽教会               | 石橋秀雄 |
| 大 阪 | 5 月 3 日 (金) 9:30<br>～ 4 日 (土) 12:00    | 大阪女学院ハールチャ<br>ペル   | 石橋秀雄 |
| 兵 庫 | 5 月 19 日 (日) 16:00<br>～ 20 日 (月) 18:00 | 神戸教会               | 石橋秀雄 |
| 東中国 | 5 月 27 日 (月) 13:00<br>～ 28 日 (火) 15:00 | 岡山教会               | 雲然俊美 |
| 西中国 | 5 月 13 日 (月) 13:30<br>～ 14 日 (火) 16:00 | 広島流川教会             | 長崎哲夫 |
| 四 国 | 4 月 29 日 (月) 13:00<br>～ 30 日 (火) 15:00 | 湯ノ浦ハイツ<br>(今治)     | 伊藤瑞男 |
| 九 州 | 5 月 1 日 (水) 13:30<br>～ 3 日 (金) 15:00   | 福岡中部教会             | 雲然俊美 |
| 沖 縄 | 5 月 26 日 (日) 16:30<br>～ 27 日 (月) 17:00 | 沖縄キリスト教センター        | 石橋秀雄 |



佐藤 真史さん

### 「仙台エマオ」シニア世代のボランティアを



1980 年埼玉県生まれ。農村伝道神学校卒。2012 年 4 月、教団派遣専従者・いずみ愛泉教会担任。

昨年、神学校の卒業期に、被災者支援センター、「仙台エマオ」の教団派遣専従者の口が掛かった。小さな教会の牧師になろうと思っていたので、悩みに悩んだ「そうだが、夫人から、「神様が呼んでくれている」と励まされて決断した。

以来、主日は担任教師として教会で、平日は仙台エマオで、ボランティアのコーディネーター、ニュース・レター、メール・マガジンの作成、教会・大学回り、ドライブバード役と、八面六臂の活躍をしている。

大震災後最初の 1 年は、担当者が次々と交代し、佐藤さんが初の教団派遣専従者となった。「もう農業を諦めていたが、泥まみれになって働く若者を見

て、もう 1 度農業をする気になった」と話すお年寄りが何人も現れたそうだし、七郷・笹屋敷地区では、佐藤さんが、町内会に出席を求められるようになった。

「教会には無縁で、祈ろうともしなかった若者が、みな輪になつて頭を垂れてくれる」と、佐藤さんもボランティアの世話をしている祈りの重要さを改めて学んだ。

ボランティアから受洗者が生まれ、献身者も誕生した。「仮設住宅で、身体不自由者、貧困者が取り残されて行く。こうした人たちにどう寄り添うことが出来るのか。どうか教会での祈りに覚えて下さい」と佐藤さんは願っている。